



富士電機株式会社  
代表取締役会長CEO

北澤 通宏

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、昨年9月に創立100周年を迎え、2024年度は、新たな100年に向けたスタートとなります。本年5月に2026年度を最終年度とする中期経営計画「熱く、高く、そして優しく2026」を発表しました。前中期経営計画において、宿願の売上高1兆円・営業利益率8%以上を達成した今、改めて経営の原点に立ち返り、経営スローガンに掲げる、熱い気持ち、高い志・目標を持って、持続的に成長する企業であり続けたいと考えています。経営目標として、2026年度売上高1兆2,500億円、営業利益率11%超、純利益率7%超を掲げました。数値目標の達成はもちろんのこと、脱炭素社会に貢献する成長の芽を育て、今後の経営の柱となる新たな事業・製品を生み出すことにも注力します。

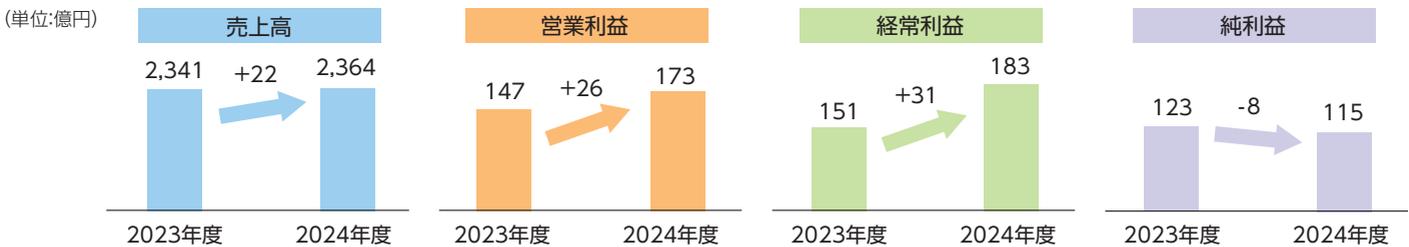
さて、当第1四半期決算は、売上高、営業利益、経常利益は過去最高を更新し、好調なスタートを切ることができました。しかし、足元では中国経済の低迷継続や電動車(xEV)市場にも変化が見られ、地政学リスク、為替変動を含め、取り巻く環境は複雑化し、先行きを見通すのが難しい状況にあります。今まで培ってきたチーム力をさらに強化し、事業機会を逸することのない経営を行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年8月

## 2024年度 第1四半期決算

### 売上高・営業利益・経常利益は過去最高を更新



#### 売上高

前年に比べ22億円増加の2,364億円となりました。

エネルギーは前年度の大口案件の影響などにより減収となったものの、インダストリーはプロセスオートメーション、設備工事、半導体は自動車向け、食品流通では新紙幣発行に伴う改刷特需などの需要増を主因にして、それぞれ増収となりました。

#### 営業利益

人件費の増加、半導体の生産能力増強に伴う固定費の増加や原材料価格高騰影響があるものの、機種構成差、原価低減、販売価格アップ、為替影響などにより対前年26億円増加の173億円となりました。

(単位:億円)

セグメント別	2023年度実績		2024年度実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー	726	50	682	33	△45	△17
インダストリー	797	0	802	20	5	20
半導体	511	71	539	77	28	6
食品流通	278	32	307	52	29	20
その他	158	10	138	8	△20	△3
消去または全社	△128	△17	△104	△17	24	△0
合計	2,341	147	2,364	173	22	26

# 2026年度中期経営計画の概要

2024年5月に2026年度を最終年度とする  
中期経営計画「熱く、高く、そして優しく2026」を発表しました。

## 2026年度中期経営計画「熱く、高く、そして優しく2026」

### ●中期経営計画の位置づけ

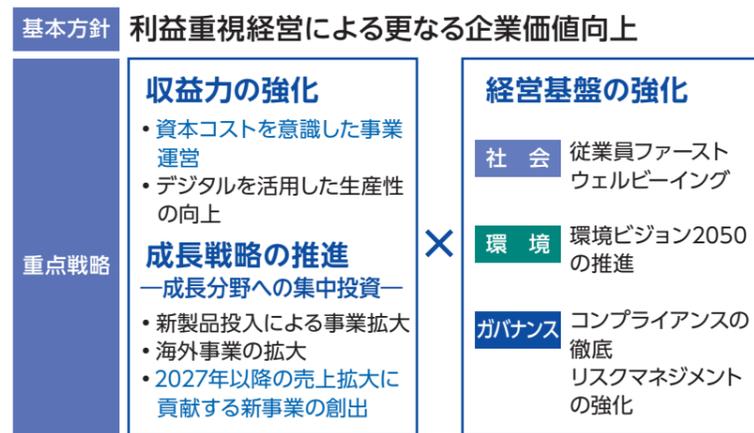
2026年度中期経営計画では、利益重視経営により更なる企業価値の向上を図ります。長い歴史の中で磨き上げてきた「パワーエレクトロニクス」を強みとして、エネルギー・環境事業でサステナブルな社会に貢献し、経営の柱となる第5の事業の創出に取り組みます。



### ●重点戦略

収益力の強化、成長戦略の推進ならびに持続的な企業価値向上を支える経営基盤の強化を重点戦略として取り組みます。資本コストを意識した事業運営を推進するとともに、デジタル技術を活用して更なる生産性の向上を追求し、利益を伴った事業拡大を目指します。

パワー半導体を中心に成長分野へ集中投資し、新製品の投入による事業拡大、海外事業の拡大を図ります。併せて2027年以降の更なる成長に向けた新事業の創出に取り組みます。持続的成長企業であり続けるために、従業員のウェルビーイングの実現、環境ビジョン2050の推進、コンプライアンスの徹底、リスクマネジメントの強化を進めます。



### ●業績・財務目標

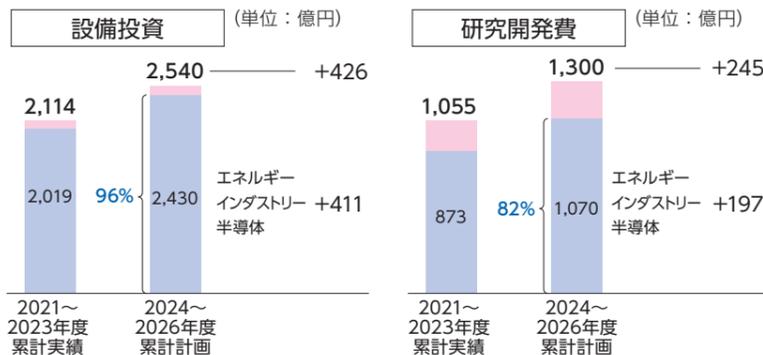
2026年度は営業利益率11%以上、純利益率7%以上、ROE12%以上、ROIC10%以上を堅持します。セグメント別では、エネルギー・インダストリー・半導体で事業の伸長、利益の拡大を図ります。営業利益率は2023年度に全セグメントが8%を超えましたが、2026年度は全セグメント10%以上を目指します。

業績目標 (単位：億円)	2023年度実績	2026年度中期経営計画	財務指標	2023年度実績	2026年度中期経営計画
売上高	11,032	12,500	ROE	13.5%	12%以上
営業利益	1,061	1,400	ROIC	11.5%	10%以上
(営業利益率)	9.6%	11.2%	自己資本比率	47.4%	50%程度
純利益	754	900	ネット D/E レシオ	0.2倍	0.2倍程度
(純利益率)	6.8%	7.2%	配当性向	25.6%	30%目安

### ●設備投資・研究開発費

成長分野と位置付けるエネルギー・インダストリー・半導体への集中投資を継続し、3カ年累計の設備投資2,540億円のうち96%、研究開発費1,300億円のうち82%を投じます。

設備投資は半導体を中心とした生産能力増強投資や環境ビジョン2050の実現に向けた環境投資を拡大。研究開発はGX関連市場の新製品開発、新事業創出に向け注力します。

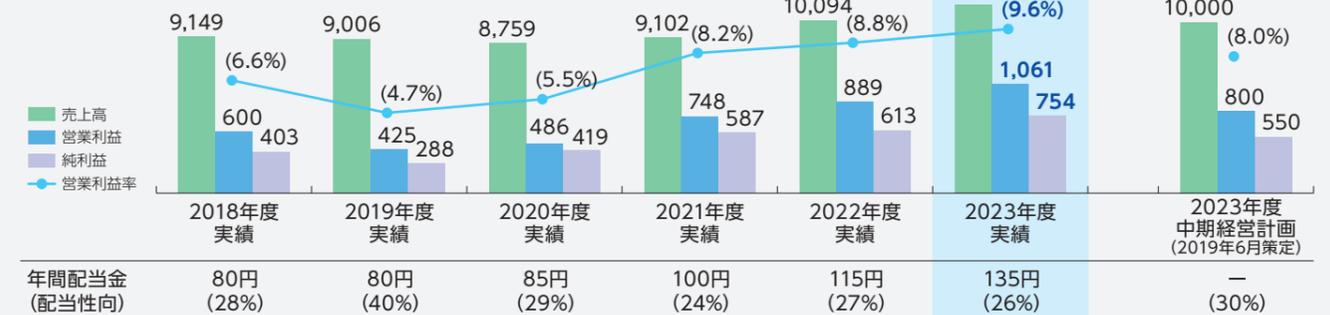


※研究開発費はテーマに応じてセグメントに分類したもので、決算短信記載の数値と異なります

## 2023年度中期経営計画の振り返り

2023年度中期経営計画は、2019年に売上高1兆円・営業利益率8%以上を掲げ、スタートしました。米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症の拡大、ロシアによるウクライナ侵攻など、経験のない世界情勢の変化とサプライチェーンの混乱があったものの、売上高は1年前倒しで目標を達成、営業利益率も2年前倒しで達成しました。この間、利益の源泉であるものづくりを強化し、次なる成長に向けた設備投資・研究開発などの成長投資を継続してきました。株主様への配当は増配を継続し、2023年度は一株あたり135円を還元いたしました。

### 業績・主要指標の推移 (単位：億円)



### ●成長戦略の推進

#### 【新製品投入による事業拡大】

クリーンエネルギー、エネルギー供給の安定化・最適化、省エネ・自動化・電化など、社会のニーズに応える新製品を投入し、事業拡大を図ります。

○エネルギーでは、蓄電システムやエネルギーマネジメントシステムなど、再生可能エネルギー (再エネ) 関連商材の丸ごと提案を強化します。

○インダストリーでは、モビリティ分野で新商材の投入、DXソリューションの提案強化、グローバル商材の拡販に注力します。

○半導体では、再エネ向け・電動車向けパワー半導体の拡販、SiC (シリコンカーバイド) の本格量産に取り組みます。

○食品流通では、デジタル技術を活用した新しいサービスビジネスに取り組みます。

#### 【海外事業の拡大】

地設・地産地消を基本に、グローバル商材の投入と地域別重点施策に取り組みます。

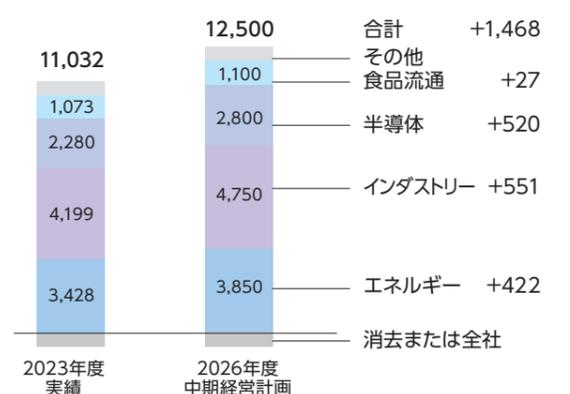
○アジア・インド他地域では、注力するインドでスマートメータ市場への参入、鉄鋼プラント向けシステム拡販に取り組みます。

○中国では再エネ向けパワー半導体の売上拡大、現地企業との協業によりインバータおよび誘導炉の売上拡大を目指します。

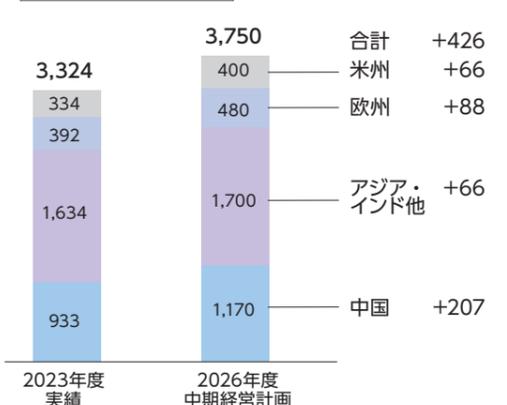
○欧州では再エネ向けパワー半導体、エレベータ向けインバータの拡販に取り組みます。

○米州では地熱発電分野の事業拡大に注力します。

#### セグメント別売上高 (単位：億円)



#### 海外売上高 (単位：億円)



上半期および通期の業績予想は、売上高、営業利益は4月発表値を据え置きました。純利益は投資有価証券の売却益を織り込み上方修正しました。セグメント別の業績予想(売上高、営業利益)では、足元の受注動向を踏まえ、食品流通は上方修正、半導体は下方修正しました。なお、通期の業績予想は、上半期の受注状況や事業環境を踏まえ精査し、中間期に改めて見直します。

(単位:億円)	2023年度 実績		2024年度 4/25予想		2024年度 7/25予想	
	上半期	通期	上半期	通期	上半期	通期
売上高	4,917	11,032	4,940	11,140	4,940	11,140
営業利益 (営業利益率)	350 (7.1%)	1,061 (9.6%)	355 (7.2%)	1,090 (9.8%)	355 (7.2%)	1,090 (9.8%)
経常利益	346	1,140	330	1,095	330	1,095
純利益	243	754	200	765	295	805

第2-第4四半期  
前提為替レート  
(4/25予想から変更なし)

	7/25予想
USDドル	¥140.0
ユーロ	¥150.0
人民元	¥19.5

セグメント別 上半期業績予想

(単位:億円)	4/25予想		7/25予想		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー	1,490	87	1,490	87	0	0
インダストリー	1,730	62	1,730	62	0	0
半導体	1,170	169	1,130	149	△40	△20
食品流通	520	55	560	75	40	20
その他	260	16	260	16	0	0
消去または全社	△230	△34	△230	△34	0	0
合計	4,940	355	4,940	355	0	0

※      が業績予想の修正

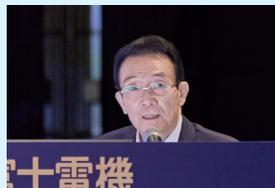
第148回  
定時株主総会開催のご報告

- 開催日時: 2024年6月25日(火) 午前10:00~11:11
- 開催場所: ウェスティンホテル東京

第148回定時株主総会には62名の株主様にご出席いただきました。

当日は2023年度の事業活動を映像でご報告し、近藤社長COOより2024年度の対処すべき課題として「2026年度中期経営計画」「経営目標」「事業別重点施策」などについてご説明しました。

※2023年度の事業活動および対処すべき課題に係る説明につきましては当社ホームページにて映像でご覧いただけます。  
<https://www.fujielectric.co.jp/about/ir/stock/meeting/index17.html>  
 (下の二次元バーコードで株主総会のページにアクセスできます)



北澤会長CEO



近藤社長COO

株主様のご承認に基づき、以下の役員体制をスタートさせました。

取締役	北澤 通宏	常勤監査役	松本 淳一
取締役	近藤 史郎	常勤監査役	大橋 潤 (新任)
取締役	荒井 順一	社外監査役	高岡 洋彦
取締役	宝泉 徹	社外監査役	勝田 裕子
取締役	鉄谷 裕司	社外監査役	植松 則行 (新任)
取締役	河野 正志 (新任)		
社外取締役	丹波 俊人		
社外取締役	富永 由加里		
社外取締役	立藤 幸博		
社外取締役	野城 智也		

※株主総会後の臨時取締役会において、北澤通宏、近藤史郎の両名を代表取締役役に選定しました。

決議事項

第1号議案 取締役10名選任の件

第2号議案 監査役5名選任の件

第3号議案 取締役に対する業績連動型株式報酬制度導入の件

※上記の議案につきましては、賛成多数をもってご承認いただきました。

「親会社株主に帰属する当期純利益」は、本報告書においては「純利益」と表記しております。本報告書の将来についての戦略等に関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。